

令和6年度 西都市立妻北小学校 学校評価

学校の教育目標		「生きる力」を育み、心豊かでたくましく、主体的実践のできる児童の育成		学校経営方針		学級経営を基盤とし、主体性を伸ばす授業や自主的・自立的な特別活動の充実を図ることにより、自分事として問題に向き合い、解決に向けて主体的に関わる子どもを育成する。	
重点目標	目標達成のための手段（評価指標）	具体的な取組	保護者からの評価	児童の自己評価	教師の自己評価	今後の改善策	学校関係者評価コメント
(1) 生徒指導や特別支援教育を基盤とした学年・学級づくり	① 生徒指導の機能を生かした学級経営を行う。 (自己存在感を与える・共感的人間関係の育成、自己決定の場を設定する。)	(ア) どんな発言も受け止めて大切にしたり、授業の中に承認や賞賛、励ましをしたりする。 (イ) 教師主導にならず、児童の状況を把握しながら授業を進めたり、多様な考え方を生む発問などの工夫をしたりする。	(ア) とても思う、思うの合計が 79% *この項目はアンケートをとっていないません。	(ア) とても思う、思うの合計が 89% (イ) とても思う、思とても思う、思うの合計が 39%	(ア) とても思う、思うの合計が 100% (イ) 指示は必要であるが、発表や学び方（自分事としてのあてを設定など）について自己決定の場を意図的に設定することを継続していく。また、数人の児童の発言で終わらないよう、教師が児童のつぶやきを拾うように心がける。校内研修の取組を通して、「ど・み・そ」の学びが全校に浸透しているため、継続するとともにグループでの話合いを今後も充実させていく。	(ア) 教師、児童ともに生徒指導の3機能（自己肯定感、自己決定の場、共感の人間関係）を生かした学級経営がなされていると感じる。称賛：叱責＝7：3が良いとされているのでそれを意識していく。しかし、保護者にその状況（取組）があまり伝わっていないよう感じる。そのため、アンケート結果を周知したり学校評価を公表したりする機会を設定する必要がある。	(ア) ほめて伸ばすのが最近の教育だと思うが、称賛10割ではなく、7～8割が、大人になっても少々の困難では挫折しない。また、挫折しても前向きに考える教育が必要だと思う。 先生方の児童に対する丁寧な対応が見られた。 ほぼ9割の児童も自分の意見が受け入れられていると感じているので今後も児童の意見に向き合い一つそのうえで教育的指導をお願いしたい。また、児童は自己決定のプロセスが出来ていないと感じているようなので今後も自ら決める場面を増やすことで意思決定の習慣化を進めて頂ければ良い影響が出てくると思う。 保護者についての評価は、年間数回の参観日で見ただけ伝わるはずがないのではと考える。学校での出来事を家で話してくれる事が多くあれば、保護者はそれで良いと思うのではないか、又、アンケートの内容が分からずご回答しているとも思える。 学校、保護者、児童に温度差があるように思われる事柄があると感じる。学校が実施している指導を保護者や地域にアピールしていく必要がある。
	② 特別支援教育の弱点を生かした学級経営を行う。 (教室環境の配慮、授業での配慮、児童への言葉かけの配慮等)	(ウ) 落ち着いて過ごせる教室環境づくりを行う。 (エ) ICT機器の活用や誰もが参加できる発問指示の工夫をする。	(ウ) とても思う、思うの合計が 79% (エ) とても思う、思うの合計が 68%	(ウ) とても思う、思とても思う、思うの合計が 74% (エ) とても思う、思とても思う、思うの合計が 85%	(ウ) とても思う、思の合計が 100% (エ) とても思う、思の合計が 92%	(ウ) ユニバーサルデザインハンドブック（県教委発行）を活用し、気が散るような掲示物は後方に掲示するなどして教室を整理したり身の回りの整理整頓の自立心を育むために、教師が工夫（きれいタイム、整頓タイムなど）したりする。教師自身が意識して、落ち着いてゆっくり、待つ姿勢を心がける。 (エ) ICT 支援員の方の協力で ICT 機器の活用が充実し、日常授業において、目的に応じたタブレットの活用ができるといえる。今後も積極的に活用し、誰もが自分の意見を発表できる雰囲気作りをしていく。 発問指示については、児童の実態に応じて授業構成を考えるようにする。また日頃から、短く分かりやすい発問を心がける。 保護者が ICT 活用の状況が十分に伝わっていないよう感じる。子どもたちはタブレットを日常的に使えており、低学年から家庭でも日常的に使えるようにしていく。	(ウ) 支援員を配置し支援体制は整っているように感じる。児童への配慮もできていると思うが、教師間の共通理解、情報共有、対象児童保護者との連携もさらに力を入れてほしい。 (エ) ICT の効果的な活用ができていると思う。デメリットの部分も明確に把握し対処していくことも必要である。低学年時よりどんどん授業へ取り入れていってほしい。 ICT 機器を使えない→さわるのが嫌になる→学習の遅れが生じる。家庭への持ち帰り頻度を多くする。フリーズした場合の保護者用の簡単な対応マニュアルがあると良い。 ICT 活用に関して児童の自己評価が高いのでしっかり取り組んでおり、かつ前のめりで活用している状況が伺える。過去に囚われず効率的に進める部分は ICT を利用して改善してもらえば先生も児童も良い結果に繋がるかと思う。 タブレット端末の使用は今後の生活に対しても良い事だと思う。キーボード入力作業を実際に見ていないので分からぬが、将来の事を考えると指の使い方を最初から指導していただくと良いのではと思う。例えば、人差し指で一個ずつ打ち込み癖がつくとなかなか抜け出せないと思う。 タブレット端末の活用の効果が表れていると思うが、その反面、書くという行為、筆圧など文字が薄くなっている弊害もあると感じる。端末に向かっている時間と共に実際に操作している時間を分析しても良いかもしない。 保護者の評価が他に比べて低い点や児童の15%が満足していない点では、改善の余地がある。教師、児童、保護者の連携や情報共有の強化が求められる。
【2】 主体的に関わる子どもを育む授業づくり	① 教科・さいと学の学習において子どもたちが主体的に関わる授業づくりを行なう。 ・ひなた学を目指した日々の授業改善 ・西都の“人・もの・こと”を通して児童が主体的に関わるさいと学の授業実践	(オ) 「ど・み・そ」の学びを実現するための授業改善を行う。	*この項目はアンケートをとっていないません。	(オ) とても思う、思の合計が 81%	(オ) とても思う、思の合計が 92%	(オ) 「ど・み・そ」の学びに向け、教師も児童も主体的に授業に関わるようになってきてるので、これを継続する。県の施策に応じて授業改善を今後も進めていく。1年生では授業作りの基礎（学習の構え）が大切な学習のきまりを徹底させていく。	(オ) 学習は疑問を持つことから始まり、反対の意見を聞いて気付いたり違いを比べたりすることで理解が深まる。校内研究の成果に期待したい。 主体性を伸ばす取組を今後も続けてほしい。

		(力)児童が主体的に関わるための指導計画の工夫や学習活動の確実な実施を目指す。 ②教科・さいと学での学びをアウトプットする機会を設定する。 ・学習した内容をアウトプットするための学習計画の工夫 (アウトプットの視点:何をどのように学んだか。その結果、何ができるようになったか。) ・さいと学における児童の発想を生かした提案型・実践型の発表内容の工夫	*この項目はアンケートをとっていません。	(力)とても思う、思うの合計が 89%	(力)とても思う、思うの合計が 91%	(力)学習の目標を子どもと共に共有するとともに、単元末のゴールを明確にして学習活動を行う。単元の指導内容に合わせ、自由進度学習の要素を取り入れた学習を取り入れることで児童自ら主体的に学ぶ姿に迫る。不易と流行を大切にした指導計画・学習活動を考える。6年生では、最高学年としての手本となるような主体的に関わる指導計画を工夫していくことも必要である。	(力)自分で考えて課題をクリアしていく探求学習はとても重要だと思う。楽しく前向きに探求できる取り組みを行っているとアンケートからも読み取れるので引き続きお願いしたい。
		(ギ)授業の最後や単元の終わりで学んだことや生活に生かせそうなことをアウトプットする時間を持つ。 (ク)さいと学における主体的に学ぶ活動を通して、西都の“人・もの・こと”を自分の言葉で表現できるようにする。	*この項目はアンケートをとっていません。	(半)とても思う、思うの合計が 78%	(半)とても思う、思うの合計が 52%	(半)自分の考えを言葉で伝えられる、友達の考えをしっかり聞けるなど、学習の土台をさらに固めていく。友達が聞いてくれていると思える教室にし、自然と言葉が出てくる雰囲気を作っていく。自分自身を客観視（メタ認知）させるために、今後も授業後や単元の終わりにふり返りの時間を設ける。その際、自分自身の学びを振り返る書き方や視点を教師が指導する必要がある。 学習と生活を結び付けられるよう、教師が意図的に声かけをする。（例：2年生で分数の学習をしたら、「2分の1はどこで使えるかな？」と声かけをする 等）	(キ)自分の考えを発表することは自信につながる。自信がつけば他人の考えも受け入れるようになると思う。 さいと学は妻北小ならではの学習だと思う。地域人材を効果的に活用し人づくりにも成果を上げていると思う。 アウトプットに関しては児童と先生で温度差があるようだ。こども達からすれば精一杯やっていると思っているようだが、先生・大人から見たらまだアウトプットの質が達してないという事かだと感じた。 スマールステップで生徒達のアウトプットを引き上げて頂ければ徐々に成果が高まるのかなと思う。 教師の肯定的な自己評価が約半分であることは重視しなければならない。個人的には「授業の終わりなどと時間の設定をする必要はなく、また授業内で必ずしも行わなければならないとは思わない。ふとした会話や帰りの会など“授業以外の時間で思い出させる・根づかせる”ことも大切である。指導者の方で負担にならない方法を模索してほしい。
		(ケ)話し合い活動の計画的かつ確実な実施を目指す。 (コ)委員会活動における児童の主体的な活動を促すために活動計画の精選や活動内容の見直しを随時行う。	*この項目はアンケートをとっていません。	(ケ)とても思う、思うの合計が 86%	(ケ)とても思う、思うの合計が 79%	(ケ)話し合い活動のグッズを作ったので、話し合いの経験を積み、話し合いの仕方を児童が知ることができるようになる。児童による学級会の相互参観をすることで学び合うことが出来るようにしていく。話し合いをすることがゴールではなく、「実践振り返り・さらなる課題をつかむ」のPDCAサイクルを意識して継続して取り組む。その中で、児童自身がやりがいや達成感を味わわせてることで、主体性を高める。学校や学級の諸問題を自分事として考えられるようにする。 係活動において、児童同士でどんな活動をしたらよいか話し合わせる機会を設ける。	(ケ)相互参観は自分自身を成長させることにつながるので良いと思う。特活の充実している学校・学級は児童が主体的に動き、児童の人間関係もよりよくなっていく。きまり正しい、あいさつができる、親切な行動が多く見られる、ところに学習（指導）の成果が表れていると思う。今後も児童が自立して行けるよう、友達や先生とのコミュニケーションをとる機会を増やしていってもらいたい。 話し合い活動グッズを大いに活用してほしい。疎外要因を取り除き、子どもたちが生き生きと自分の考えを自己表現でき、誤発言があってもその発言を生かして学び合う学級にしてほしい。 児童を中心にして話を決めていくプロセスは是非ともお願いしたい。合意形成はコミュニケーションが全て。ネット社会で人との深い関りを避ける人も多いが、しっかりと人と関わりを持ち議論をすることが集団で答えを出すことには必要なので宜しくお願ひしたい。 PDCAを授業の中で取り組んでいることは良い事だと思う。子供のころから、何事に於いても計画を立てて実行し、評価して改善していく癖をつけて頂いたら、絶対に将来その子の為になると思うので是非継続して頂けたら良いと思う。 話し合いの機会を増やすことで自分自身のことを見つめ直したり発見したり話す力、聞く力がつくことを期待したい。重要なのは教師と児童との目標や情報のこまめな共有であり、ゆとりのある計画で取り組んでほしい。
(3)自立につながる学校生活づくり	①学級活動や児童会を中心とした自主的・自立的活動の充実を図る。 ・学級会における話し合いの充実と事後の実践化 ・学校行事や委員会活動における自主的・自立的活動の充実	(コ)委員会活動における児童の主体的な活動を促すために活動計画の精選や活動内容の見直しを随時行う。	(コ)とても思う、思うの合計が 74%	(コ)とても思う、思うの合計が 72%	(コ)とても思う、思うの合計が 82%	(コ)今後も児童の思いを大切にして活動を進めたい。指導者の関わりにより、児童がよりよい学校生活に向けて自分の考えを提案する姿が見えてきた。次年度は特別活動主任を中心として、委員会活動の目的の共有などを図っていくことで、さらに主体的に活動できる児童の育成を目指すようにする。各委員会設定の段階から、活動の目的や意義を再確認し、活動内容計画を含め、再編成していく。	(コ)今後の社会生活に生きてくると思う。 互いに支え合うことの重要性が身に付いてくると良いと思う。